

自己評価及び外部評価結果

平成25年度

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495300178	事業の開始年月日	平成23年12月1日
		指定年月日	平成23年12月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語たかつ新館		
所在地	(〒213-0031) 神奈川県川崎市高津区宇奈根637-6		
サービス種別 定員等	☒ 小規模多機能型居宅介護 ☐ 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25名
		通い定員	15名
		宿泊定員	9名
		定員計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成26年1月8日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・＜（生き活きと暮らそう）生き活きとした暮らしは笑顔と呼ぶ、笑顔は生きる喜びに繋がる＞の理念を実践しています。玄関を入ると楽しそうな笑い声が絶えずあり、暖かい雰囲気が感じられる施設です。利用者もスタッフも笑顔がいっぱいです。 ・「コロナバビクス」と命名したボールを使った体操を取り入れています。これは、定期的に運動指導員の資格を持ったボランティアさんの訪問があり、体操を指導していただいているものです。またスタッフが運動指導の仕方を習って利用者と一緒に体操をするようにしています。このように体を動かす機会を多く設けるように意識しています。 ・外出のイベントは月1回程度行っており、等々力溪谷や昭和記念公園、深大寺などへ出掛けています。利用者だけでなくご家族からも好評を頂いています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年1月31日	評価機関 評価決定日	平成26年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所概要】 この事業所は、JR南武線久地駅から徒歩で15分程の場所に位置する。梨畑や民家が立ち並ぶ中にあり、事業所周辺一帯がメディカル・ビレッジという名称の医療と福祉の複合開発地域である。連携医院や薬局が隣接し、道路向かいには同法人のグループホームと通所介護事業所、その奥にはサービス付き高齢者向け住宅がある。建物は鉄骨3階建てで、1階が当事業所、2～3階は併設のグループホームとなっている。
【次世代職員育成のための取り組み】 現管理者が新しく着任したことを転機とし、よりよいサービスに向けて新しい体制と様々な取り組みに着手している。利用者の希望に合わせた外出の機会を増やし、これまで外出に対して消極的だった利用者も、「次はどこに行くの？」と外出行事を楽しみにするまでになった。そのことで職員にも「（今の利用者の状態では）できない」から「（自分たちが支援を工夫すれば）できる」との自信が付き、よい意識改革になってきている。
職員のスキルアップのために、併設のグループホーム各フロアをも合わせ、職員ごとに各種委員会委員を任命した。職員が主体となってそれぞれの役割を進めて行くことや、外部評価の自己評価55項目を全職員で取り組むなど、次世代職員の育成に力を入れている。職員は、年齢や経験も様々だが、管理者の期待に応えるべく向上心を高く持ち、日々の支援に取り組んでいる。
【地域との交流を活発にする取り組み】 『コロナバビクス』（ボールを使った高齢者向けの転倒防止体操）、傾聴やハーマニカなどのボランティア活用、日常の散歩時など、利用者と地域住民との交流を支援している。普段の送迎時に、車が見えなくなるまで手を振る職員の様子を見ていた近隣住民からは「いつも笑顔で明るく好感が持てる」との言葉をもらっている。空いている泊まりの部屋を地域交流の場として活用し、気軽に事業所に立ち寄ってもらえるよう、また小規模多機能型居宅介護サービスについても知ってもらえるよう、積極的に具体策を検討している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	花物語 たかつ新館
ユニット名	小規模多機能型居宅介護

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についてスタッフ全員で共有し、利用者様の笑顔が絶えない環境づくりに取り組んでいます。	理念は、現管理者が就任時に職員に意見を出し合ってもらったものを基に作成した。玄関、事務室、スタッフルームに掲示している。日頃からミーティングなどで共有し、利用者が「生き活きと暮らせるように」笑顔で支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の納涼祭や例大祭に参加し地域の方々と交流を図っています。また散歩時や庭先での挨拶を通じて、親交を深めています。	町内会に加入しており、納涼祭への参加や、地域の例大祭では、大人神輿や子ども神輿が立ち寄り、利用者と交流している。ボランティアとしては折紙やハーモニカなどが来訪している。久地小学校の4年生が学習発表のためのインタビューに訪れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や近隣の方へは、スタッフの利用者への対応を通して認知症の理解が得られるように働きかけています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での内容は朝の申し送りやフロア会議などでスタッフへ伝え、情報を共有しています。また会議の中で出た意見については改善策を話し合っています。	運営推進会議は併設のグループホーム「たかつ新館」と「たかつ」の3事業所合同で2ヵ月ごとに開催している。利用者、家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員などが参加し、状況報告や地域についての情報交換などを行っている。直近では民生委員を中心に、災害時の具体的対策や施設としての協力体制、合同消防訓練、災害対策セミナーなどについて話し合われている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターからの困難事例の相談にも早急に対応し、協力体制を取っています。また区役所高齢支援課へは書類提出時に登録状況の報告や、小規模としてのサービス内容について相談等を行っています。	区の高齢障害支援課には空き情報の提供をしたり、地域包括支援センターとは、要支援者の困難事例などの相談を受けたりして連携している。川崎市小規模多機能型居宅介護事業者連絡協議会に参加し、職員の交換研修や情報交換を行っている。		

	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束防止マニュアル」を基に研修を行い、身体拘束について意識しながら職務にあたっています。 防犯の為、玄関の鍵は施錠していますが、外出希望者には出来る限り対応しています。	「身体拘束廃止委員」担当の職員が講師になって、法人マニュアルや事例などを用いて、研修を行っている。身体拘束の弊害やどんな事が身体拘束になるのかを、職員は普段から意識するとともに独自の「チェック表」で確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について勉強会を開催し意識付けに努めています。事業所内ではスタッフが互いに注意できる関係が築けるよう努力しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や介護支援専門員は研修で学んでおり、それをスタッフに伝えています。また対象の利用者様に対しては、資料などを取り寄せ、情報提供しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面と言葉で説明し、理解と納得して頂けるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にご家族との面談を行っています。送迎時にご家族からのお話や、連絡ノートに意見などが記入されている場合、スタッフ全員で共有するようにしています。	「家族会」という形式的なものではなく、イベント時の楽しい雰囲気や、家族同士の交流もかねた集まりを重視し、意見を出しやすいようにしている。これは家族アンケートの意見を取り入れたものである。その他には、外出先などの希望や意見などが多く出されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回フロア会議を、数か月毎に全体会議を行っています。その中で個々の意見を出し、話し合いが出来ており、業務改善に繋がっています。	併設のグループホーム職員も合同の、運営・行事・研修・環境美化・広報・安全対策・身体拘束廃止委員などの委員会があり、それぞれのリーダーが中心となって、会議開催や役割を担当する仕組みとなっている。委員会ごとに職員同士で意見を出し合い検討している。玄関入口に置く椅子の選定、玄関周りの花やベンチ、メダカの飼育などは、職員の提案からである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的かつ必要に応じてスタッフ面談を行っています。各々の得意な分野（園芸や小物作り、体操等）や個性を生かすことでモチベーションUPを図っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に応じた研修への参加を促しています。また研修に参加したスタッフは、伝達研修を行う等で職場内での質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所との交換研修を取り入れています。その中で色々な気づきを持ち帰り、自事業所での業務改善に繋がっています。法人内だけでなく他事業所の見学・訪問は積極的に行っており、交流があります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の会話の中から、困っている事や不安な事がないかを読み取るように努めています。また要望を表現しやすいような信頼関係づくりを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が話しやすい雰囲気作りや、面談や電話などで、こちらから、お尋ねする様に心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のA D Lを観察し、スタッフ同士の情報交換、話し合いにより、どのサービスが必要なのか対応を一緒に考えています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	若いスタッフは昔からの習慣や習わし等を利用者から学ぶことも多く、年長者として敬意と感謝の気持ちで接しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	送迎時や連絡ノートなどでご家族とのコミュニケーションを取りながら、絆を深めるように努力しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院やお店へ行きたい方は、お連れしています。また、今まで通っていた老人クラブや地域行事への参加支援も行っています。	訪問サービスの一環として、それぞれの利用者に合わせ、地域の老人クラブや昼食会、書道クラブなどの参加を支援している。独居の利用者には、これまでの暮らしぶりを考慮し、馴染みの店への買い物などを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の並びを考慮し、利用者同士が関わりを持てるようにしています。また時にはスタッフが間に入り会話の橋渡しをしています。レクリエーションでは全員参加できる作品作りを取り入れるように工夫しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した方からの相談もあり、再度利用が開始した方もいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族への確認や、ご本人との会話の中から、希望、意向を聞き取るようにしています。表現が難しい方は、表情から汲み取るようにしています。	利用開始時の初回訪問・アセスメント・契約時・毎月のケアマネジャー訪問時などの際は職員も同行している。本人だけでなく、家族との関係性や、自宅での様子、利用者の多面性を把握して、思いや意向把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを参考に生まれ育った環境や生活歴をスタッフが知る事で馴染みの生活が送れる様に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の様子の変化等を観察し、必要なケアが的確に行えるように現状の把握に努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会議で様子を話し合い、介護計画の見直し、作成をしています。また、ご家族との話し合いを定期的に行っており、要望等をプランに取り入れています。	毎月のフロア会議で利用者一人ひとりの現状を考慮し、職員間の意見のすり合わせを行っている。家族の希望や医療援助記録を参考にしてみんなで作り上げるライフサポートプランを心がけている。通常は6か月、状態に変化があったときには随時見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録、連絡ノート、申し送りノート、会話を通し、スタッフ間で情報を共有し必要に応じてプランの見直しを行っています。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な泊まり希望や、送迎時間の変更など柔軟な対応に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の見守りや声かけで協力して頂きながら、在宅生活が円滑に行えるよう生活環境を整えていくように努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各々のかかりつけ医に受診しています。受診時、必要があれば同行し、情報を伝えています。	利用者全員がかかりつけ医の診療を受けている。基本的に受診は家族対応であるが、必要な場合は職員が同行している。法人の看護師が週2回健康管理を行い、介護スタッフと情報の共有を行い、適切な医療受診につなげている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護スタッフは情報交換をしながら、気付いた事はすぐに報告し適切な対応が出来る様にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供はご家族、医療関係者にしています。お見舞いや電話で情報共有出来る関係づくりをしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階から、ご家族とお話をしています。 また、日頃からその様な話題についても話し合い確認し合っています。	利用者、家族には契約時に重度化が進んだ場合に事業所として対応できることを口頭で説明している。医療が必要になった場合は「本人にとって一番良い方法、場所はどこか」を家族、関係者と話し合い、かかりつけ医や訪問看護と連携し、訪問サービスでの支援を行っている。開所して以来まだ事例はないが今後に備え、方針や対応を検討中である。	現在、小規模多機能型居宅介護事業所としてのターミナルケアについて、職員、関係者の足並みを揃える事を検討中です。事業所としての方針を作成し、勉強会などを踏まえ様々な事態についての心構えや具体的な対応方法を修得することが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急対策マニュアル」に基づき社内研修を行っています。また事故は未然に防げるように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の指導による避難訓練を実施しています。近くに同じ法人のグループホームがあり協力体制が取れています。運営推進会議でも議題として出ており、近隣の協力が得られています。	避難訓練はグループホームと合同で年2回実施している。また緊急連絡網を使った訓練もしている。近隣に住む職員が多く、有事の際はすぐに駆けつけられる体制がある。事業所の訓練時には地域住民にも声かけしたが参加は得られなかった。災害備蓄は食料、水などを3日分備えている。	昨年度の目標達成計画は、まだ取り組み途中です。運営推進会議でも取り上げられ、地域消防団に入っている民生委員からの提案もありますので、引き続き検討を重ね、昼夜の形態が異なる小規模多機能事業所の災害対策を地域住民の協力を含め、先進的な取り組みに期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇、マナー研修を実施し、言葉遣いや身のこなし等相手の身になって思いやりの心で接しています。	職員は接遇やプライバシー保護等の研修を受けている。昨年10月には社会人の接遇マナーについても学んだ。送迎の順番などには配慮し、事業所でのその人に合った役割を持ってもらうなど「花物語たかつ新館」に来るのが楽しみとなるよう支援している。個人情報のある書類は、鍵のかかる場所に収納している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを尊重し自己決定できるよう働きかけをしています。 飲み物のメニューを作成し選んで頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いはず、利用者の希望に柔軟に対応し支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気持ちを伺いながら、ご自分で選んで頂けるよう支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付けの際、お手伝いの出来る方には声掛けし参加して頂いています。 お一人ずつの味の好みを伺いながら調整可能なものは対応しています。	献立付き食材を業者に配達してもらい、職員が調理している。毎月の行事食やレクリエーションのおやつ作りでは、たこ焼きやかきもちなどを利用者と一緒に作ったり、外出先の観光地では蕎麦屋に立ち寄ったりするなど、楽しめるイベントを工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態、好みに配慮し栄養バランスのとれた食事を提供しています。食事量、水分量は記録に残しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けと介助により口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握しています。失禁のある方に対してすぐにオムツにするのではなく、声掛けや誘導を行いトイレでの排泄を促しています。	リハビリパンツを使用している方も含め、全員トイレでの排泄を支援している。オムツを使用し寝たきりだった方にも3ヶ月かけて支援した結果、事業所利用時だけでなく、自宅でもトイレに行けるようになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な水分量の摂取と運動などに参加の声掛けをしています。便秘傾向の方には、看護師に相談し、対策を考えています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の体調により声掛けして、入浴支援をしています。入浴拒否の方には、入っていただく為の声かけや対応スタッフを変えてみる等の工夫をしています。	入浴時間は特に決めていない。本人の習慣や希望に合わせ、朝7時頃に入る利用者にも対応している。入浴をしたがらない時は、時間や声かけの仕方を工夫するが、その時の本人の気持ちを大切にして、無理強いはいしないようにしている。	

	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を伺いながら状況に応じて支援しています。居室の温度や湿度等の調整をまめに行い環境整備に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤提供情報を基に服薬支援を行い、薬のチェックは漏れがないようにダブルチェックを行っています。服薬後の症状の変化等も観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	金魚の餌やり、花の世話、食器洗い等のお手伝いをやって頂いたりとし、役割や楽しみを持った生活となるように心掛けています。また歌や運動のレクリエーションの中で気分転換出来るようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度、利用者様の希望を取り入れた外出イベントを行っています。鎌倉や深大寺等に出かけ、楽しい思い出づくりを支援しています。また、天気の良い日は、近隣への散歩も行っています。	その日の天気や利用者の体調を見つつ、思い立ったら時間を決めず、散歩に出かけている。車いすの利用者も一緒に散歩に出る。お花見や梨狩り、増上寺などの遠方への外出行事も多い。コーヒーショップや買物、事業所の玄関前での外気浴、メダカの餌やりなど、個々に合わせてなるべく外に出る機会を持てるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の要望に応じて、買い物にスタッフが付き添い、ご本人が商品を選び支払うまでの支援をしています。		

51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じ、希望があれば、ご家族への電話の取り次ぎを行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境美化の担当者を中心に生活感や季節感を取り入れて過ごしやすい空間を作るよう努めています。	空いている泊まり用の和室に、炬燵やマッサージチェアなどを置いて、家庭的なくつろげる空間にして地域交流や休憩時などに活用している。リビングでは金魚を飼育し、利用者が当番でエサをあげている。利用者の折り紙作品や節分のお面などが飾られていた。玄関入口には施設っぽくならないよう、暖かみのあるイスや鉢植え、水がめなどが置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配慮、フロアにソファを設置し、居心地の良い環境を心掛けています。 和室があり、利用者同士の交流の場となっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりの部屋は可能な限り同じ部屋となるように調整しています。また、ご本人の馴染みの品物を持ってきて頂く等で、安心して過ごせる空間作りに努めています。	泊り利用の際は、ベッドの位置や高さを本人に合わせて調節し、利用者が混乱しないように工夫している。本人がいつも使っているひざ掛けなどをベッドカバー代わりにするなど、自宅の部屋と同じような環境を作るよう心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂等を混乱の無いように分かりやすくしています。居室前には名札を付けています。風呂やトイレはバリアフリーになっており、手すりも設置してあり安全になっています。		

目 標 達 成 計 画

(小規模地域機能)

事業所名 花物語たかつ新館

作成日 平成26年 4月 18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	今後重度化した場合に備え、体制づくりが必要である	具体的な対応方法を身につける事が出来る	・勉強会の中で心構えや具体的な方法を学ぶ ・事例検討会を行う ・他施設での取り組みの情報を収集し伝達する	1年
2	13	災害に対して十分な対策が出来ていない	地域とのかかわりの中で連携を持ちながら災害対策に取り組む	・運営推進会議で地域の方を交え災害について話し合う機会を作る ・施設で出来る事を提案していく ・町内会の自主防災担当との意見交換をする ・日常的な近所付き合いの中で、馴染みの関係づくりをする	1年
3					
4					